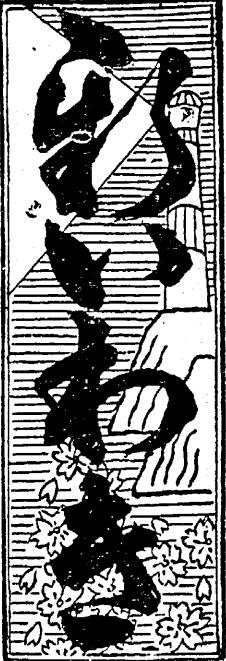


刊夕 日七十月二



日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日
日刊但日曜祭日

座講識常
サイド・ライトは脇か
ら照らす光燈のことだ
映畫撮影等の場合被撮
影の物体に側面から光
線を注ぐ燈器を云ふの
であるが轉じて側面觀
の意にも用ゑ何々のサ
イド・ライト等と云ふ

内郷村の山地崩壊 居宅倒壊五名生埋

磐炭の地下採掘が原因か 今十七日夜間の大椿事

石城郡内郷村の綴字板宮澤四
一山崎美隆方裏山約二町歩の
面積が今十七日午前二時頃崩
壊して同家を押し倒し其の下
敷となつた家族五名は災害を
開いて逃げつけた部落民及び
消防員の爲め全部救出されて
其の他にも死傷なきを得たが
次へで郷家の齋藤鶴吉方に於
ける土蔵をも倒壊した夜間の
突然なる災難に被害者は勿論
大騒ぎを演じ夜明けと共に善
後處置に必死となつてゐるが
崩壊の原因は磐炭の地下採掘
による地表の龜裂へ近年にな
り積雪が十餘日に亘り濕々と
解けてゐる水と凍結が浸透し
地盤を緩めたものと云はれて
否認し緩液でない地入りは地
質によるものと唱ひて居り急
事に駆けつけた平署その他専
門家に嚴密なる調査を請ふこ
とになつた



獲らぬ前の 狸の皮算用

泣くのも笑ふのも 残る所三日間

選挙前正に委員の奔走は云ふ
迄もなく老幼男女を擧げての
運動は可憐な子女の旗行列か
ら空に響く爪の唸り中女學生
の書方に鬪争男女青年その他
各種團體の祈願祭清き誓ふ
て神壇に捧ぐる投票當日の赤
飯等々あらゆる努力の中に會
てない亂軍を交へてゐる第三
區演説の戦禍は遂に政友派
の候補に悪質な違反を見る
に至つたが犯罪は司直の取調

流石は警察官夫人 第六感でスリを知る

平館に於て映畫觀覽中 助かつた隣接の被害者

平町の白銀町一二花澤鶴雄三
は去る十五日午後十時頃同
町活動常設平館の一等席に於
て映畫に見とれてゐる町内字
田町安齋病院に入院治療中の
患者石城郡下小川村の柴原花
園とめ三から現金八圓九十
錢在中の鞆口をすり何喰はぬ
顔でゐたが館のはねるに及ん
で盗難に気づいた被害者が騒
ぎ出し之れより先き隣席に居
合た平署高等係長澤部補夫
人が流石は其の筋の人の妻と
して舉動不審と睨んでゐた男
の左肩元を傷を殘す特徴を
見極め六尺に近い身の大から

風ろ行きで 行方不明

巧妙な前借詐欺

岩手縣紫波郡赤石村の櫻町長
谷川とし子(三三)は去る一月廿
七日宮城縣鹽釜町で女給中平
地方で稼ぎたいと平町宇田町
桃の井事金澤常尾方に住み込
む約束で前借支拂其の他に要
する現金五十五圓七十錢を借
り常尾方で營業許可願を作製
中風呂へ行つてくると出かけ
たまゝ行方不明となり被害者
から平署に捜索方を願出たが
同人は會て石の巻市野町一五
五櫻井ふよ方に情夫小龍功と
同棲してゐたことがあり功と
共謀の前借詐欺らしいと

十丹賭博打盡

石城郡小名濱町宇古淡菊地春
治方に於て昨十六日午後八時
頃から夜半に至り左記六名が
十丹と稱する現金賭けの花賭
博最中を平署員に一網打盡さ
れた

六名の花賭博

石城郡内郷村高坂の磐炭炭礦
探採夫金野賢次郎(三三)方に於
て昨十六日午後二時頃同人外
左記五名が現金賭けの花合戦
中平署員に踏込まれて全部逮
捕された

の表彰

片倉 (昨紙掲載の續き)
▲撰讀優良組合双葉鶴世福
山田第一 熊町 小良濱第
二 小濱 松ヶ岡 石城長
友 下市 中神谷 白水
八幡 泉田 下船尾 泉第
五 高野 上市 堂 差盤共
榮 洞 橋の木 内の草
高砂 田人 枝柳 滑津
山田 入遠野 上遠野第二
▲十年以上繼續取引前原
大谷 北田第一 上小端
稻荷前 下町 山田第一
下市 深山田 寺代 鷹
の巢 内の草 上遠野 ▲優
良幹部選勝利傳外四十三名
▲模範婦人(技術に長じ業
後略) (小名濱測候所)

劍齋室直與略歴

丙子新正九十歳の自作詩を
偶然の辭世として
同三十二年丙申 三月三十日、癸子三次を磐城郡平窪村字
横枕八十四番地に分家す(五十歳)
同三十二年丁酉 五月十九日、二女ニキ子石城郡平町宇南
町三十三番地平民馬目徳三郎に嫁す。七
月、平窪村長八ヶ年の満期解職、十
二月二十日、茨城縣多賀郡書記を命ぜら
る。(五十一歳)

政見發表會

立憲政友會
衆議院議員
公認候補者
松本孫右工門

元代議士 木村清治君
元代議士 佐藤庄太郎君
前縣議 井上茂作君
候補者 松本孫右工門君
責任者 石城郡平町五丁目十一 井上茂作

會場、平町第三小學校

日時、二月十七日午後七時より
(同日午後六時より)
(小名濱町公會堂に於て)

淨光院送葬の際には御多忙の折に
も不拘遠路御會葬被下且御鄭重
なる御香奠を賜はり御芳情誠に
難有奉深謝候
一々拜趨御禮申述べき處略儀甚
だ乍失禮以紙上御禮申上候敬具
昭和十一年
二月十六日
外親 阿部唯次郎
外親 戚一同

寶照院妙嘉福相日徳大姉儀葬送

の際には遠路の處御會葬被成下且
つ御鄭重なる御香奠を賜はり御
厚志の段有難く奉深謝候
略儀乍以紙上御禮申上候 敬具
昭和十一年
二月十六日
會川延太郎
外親 戚一同

同三十一年戊戌 二月一日、多賀郡役所内官報通信委員と
爲る。七月廿三日、多賀郡書記月俸金八圓
を給す。十月四日、同職に於て七月分の手
當一圓十錢を受く。(五十二歳)
同三十二年己亥 一月二十日、多賀郡書記の辭表を提出す
を任命。是の月三十日、同郡書記滿一年勤
務に付金四圓を賞與さる。六月十三日、昨
年九月中、茨城縣下風水害に寄金の謝狀
を受く。十月八日、大日本武徳會茨城支部
委員を囑託す。十二月十五日、明年十二月
限り山小屋小學校教師を命ぜらる。(五十
七歳)

